

高学年提案

研究主題

「Let's try communication more!」～児童が主体的に取り組む外国語教育の創造～

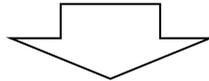
目指す児童像

様々な表現や言葉を用い、他者意識をもちながら、自分の考えや気持ちを伝え合う子ども

☆6年研究授業 外国語 単元名『Unit6 Let's think about our food.』

6年生児童の実態

- 担任やALT・友達と積極的に英語でのやり取りをしようとする態度が身についている。
- 本当に自分の伝えたいことを伝えたい場面に直面した時に、既得の知識や経験を言語活動で活用する能力は低い。
- 学年が上がったことで、英語に対して自信がなくなったり、苦手意識を持つ児童が増えてきた。



◎目的や場面など必然性のある活動を通して、自分の考えや気持ちを伝え合う活動を！

「児童が主体的に取り組む」ための手立て

(1) 様々な表現や言葉を使う

- ・外国語に慣れ親しむための導入の工夫
リーダーの挨拶から始まり、「歌」「文字と音」を毎時間繰り返すことで、学習に対する緊張感を和らぐことができるようにする。
- ・言葉や表現の掲示の工夫
やりとりの例示を掲示し、そのカードを頼りに、これまで慣れ親しんだことを思い起こしながら、やり取りができるようにする。

(2) 他者意識をもたせる

- ・Small Talk の工夫
単元で使用する表現を用いて、週1回Small Talk を行う。児童同士は1分間会話をし続けることができるよう、モデルを示すようにする。
- ・相手への応答の仕方を例示
やりとりを通して、相手が話したことを繰り返したり、応答したり、質問したりすることで会話を繋げたり広げたりできるよう、応答の仕方を例示し、意識付けする。また、ALTとのやりとりでは「応答のよさ」を実感できるよう、応答することで相手の思いや考えを受け止める。

(3) 自分の考えや気持ちを伝え合う

- ・必然性のある場面設定
自分の考えを伝え合う、必然性が生まれるように、おすすめの給食の献立を実際に発表する場を設定した。自分の考えを友達に伝えたい活動、グループの考えを他のグループに伝えたい活動にすることで意欲を高める。

本時のポイント

- ・グループでおすすめの献立を伝え合う活動は、児童の主体的な活動を促す上で有効だったか。